

問：**脳脊髄液減少症への適切な対応を** 「脳脊髄液減少症」とは、頭部などへの強い外傷により脳脊髄液が漏れ続け、頭痛、頸部痛、めまいなどの様々な症状を引き起こす病気といわれているがその対応はどうか伺う。

答：<石黒市民病院事務局長> この10年間で患者数は3人。脳神経外科の疾患だという認識はもっている。診断治療可能な病院として県のホームページに掲載されている。しかし、この疾患の専門医がないため、名古屋市立大学病院に紹介する事になる。疾患の重症度が高まれば、その傾向はより強くなる。



答：<鵜飼市民福祉部長> 「脳脊髄液減少症」の普及啓発については、保健センターのホームページに掲載した。また、広報がまごおりの「健康カレンダー」のページ等を利用して啓発に努めたい。

答：<平岩教育長> 平成19年の文部科学省の通知を受け、各学校にも「脳脊髄液減少症」について周知したが、患者の報告は受けていない。しかしながら、症状が似ていたりするような場合は、学校から病院への受診を勧める。養護教諭には、この病気についてのDVDを回覧し、学校現場での認知度をあげようと努力している。

問：**国民読書年の取り組みは** 今年は、2008年に衆参両院の全会一致の決議を経て制定された「国民読書年」である。市としての取り組みはどのようなか伺う。



答：<小嶋教育部長> 蒲郡市立図書館は「親子で読書の楽しみを養おう」というキャッチフレーズのもとに、親子読書推進事業を国民読書年の事業の一つとして位置づけている。「毎日親子20分読書」や親が子どもに読み聞かせを毎日5分でも10分でもおこなうことを提案していく。このため、国民読書年のロゴを活用した広報活動や、親子読書に適した本の活用促進を図書館分室や学校図書室、保育園、児童館の巡回文庫で実施し、読み聞かせボランティアの養成もあわせて推進していく。

市民相談・生活相談はお気軽に！

※法律相談・よろず相談・市政に対するご意見等



連絡先：松本まさなり
 市役所：0533-66-1169
 自宅：0533-57-6999
 携帯：090-2921-0998



NEW KOMEITO

公明党